

先端加速器科学技術推進シンポジウム 2014 in 東北

ILCの日本実現に向けて

2014年8月23日(土)

13:30~16:30 (開場 12:30)

会場: 奥州市文化会館(乙ホール)

大ホール

入場無料 (申し込み不要)

©Rey.Hori/KEK

■講演

国際リニアコライダー (ILC) が目指すもの

高エネルギー加速器研究機構 機構長 鈴木 厚人 氏

人口減少時代とILCへの期待

日本創成会議 座長 (前岩手県知事) 増田 寛也 氏

国際リニアコライダー (ILC) 実現への道

先端加速器科学技術推進協議会大型プロジェクト研究部会長 山下 了 氏

主催: いわてILC加速器科学推進会議、岩手県国際リニアコライダー推進協議会、東北ILC推進協議会
(一社)国際経済政策調査会、先端加速器科学技術推進協議会

後援: 高エネルギー加速器研究機構、岩手県、奥州市、金ケ崎町、岩手日報社、胆江日日新聞社
岩手日日新聞社、河北新報社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ
岩手朝日テレビ、水沢テレビ、奥州エフエム放送

お問い合わせ先

奥州市総務企画部政策企画課 ILC推進室 Tel.0197-24-2111(内線415) ilc@city.oshu.iwate.jp

《 講師プロフィール 》

■鈴木 厚人 (すずき・あつと)



1946年、新潟県生まれ。1974年、東北大学大学院理学研究科博士課程修了。専門は高エネルギー物理学。高エネルギー物理学研究所（現・高エネルギー加速器研究機構＝KEK＝）助教授、東北大学理学研究科長、同大学副学長などを歴任。ノーベル物理学賞受賞者・小柴昌俊氏の助手として、「カミオカンデ」「スーパーカミオカンデ」実験で活躍。2006年からKEK機構長。2005年に紫綬褒章（素粒子物理学における貢献）を受章。

■増田 寛也 (ますだ・ひろや)

1951年、東京都生まれ。父は、前沢区出身の元参院議員・増田盛氏。1977年、東京大学法学部卒業後、建設省入省。建設経済局建設業課紛争調整官などを経て、1995年4月から岩手県知事を3期12年、2007年8月から2008年9月まで総務大臣を務める。現在、野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授、日本創成会議座長。趣味はサイクリング、乗馬、カヌー、スキー。



■山下 了氏 (やました・さとる)



1965年、千葉県生まれ。1989年、京都大学理学部卒。1995年、同大学で理学博士号取得後、東京大学素粒子物理国際研究センター助手に就任し、欧州合同原子核研究機構（CERN）にて国際共同実験に携わる。2007年から同センター准教授。研究分野は素粒子物理実験、加速器科学。ILC戦略会議議長、先端加速器科学技術推進協議会・大型プロジェクト研究部会長なども務める。

ILC(アイエルシー)とは？

International Linear Collider（国際リニアコライダー）の略。物質の構造や宇宙誕生の謎を解明する「素粒子物理学」の研究のために計画されている国際的な大規模実験施設です。昨年8月23日、実験に適した強固な岩盤があることなどを理由に、奥州市や一関市、宮城県北の北上山地が国内建設候補地に選定されました。

実現に当たり、総額約1兆円ともされる建設経費、人材確保について主要国とどのように調整するかなどが重要課題になっています。文部科学省は本年度、有識者会議を設置して日本誘致の可否判断に向け検討しています。

しかし、決して先行きが思いやられる課題ばかりではありません。住民と産学官が連携し、知恵を出し合うことで、豊かな自然を生かした国際学術都市といった世界に誇る地域将来像を描き、実現させることも十分に可能です。衰退する地域経済や少子高齢化による人口減、そして東日本大震災からの復興など、今まで地方が抱えていた諸課題の解決に結び付く千載一遇のチャンスでもあります。